

日本海における大規模外洋性赤潮の被害防止対策

(漁場環境・生物多様性保全総合対策委託事業)

勢村 均・堀 玲子・福井克也・吉田太輔

1. 研究の目的

日本海で発生し漁業被害が顕著になっている外洋性有害赤潮に対応するため、その発生状況や海洋環境について、沿岸及び沖合海域の漁場モニタリング調査を行う。

2. 調査方法

(1) 沖合調査

島根丸により、外洋性赤潮の沖合部での発生状況を調査した。

① 調査定点及び調査実施時期

沿岸定線観測における ST12 及び 13 の 2 定点で、7 月 29 日及び 9 月 1 日の 2 回実施した。

② 観測・調査項目

水温・塩分観測(表層～水深 500m)、透明度、風向・風速、水色(赤潮観察水色カードによる)、赤潮プランクトン細胞密度(表層及び 10m 深)。

(2) 沿岸調査

沿岸地先海域における現場調査により、外洋性赤潮の漂着状況や沿岸部での発生状況を調査した。

① 調査定点及び調査実施時期

西ノ島町(S1:水産技術センター栽培漁業部棧橋)、松江市鹿島町(S2:恵曇漁港内)、出雲市大社町(S3:大社漁港内)、浜田市(S4:浜田漁港内)、益田市(S5:飯浦漁港内)の 5 定点で、7～9 月に月 1 回の頻度で実施した。

② 観測・調査項目

水温・塩分観測、透明度、風向・風速、水色(赤潮観察水色カードまたは Forel 水色計による)、赤潮プランクトン細胞密度(表層及び 5m 深または底層)、溶存酸素量。

3. 調査結果

(1) *Chochlodenium polykrikoides* の出現状況

全調査定点において、出現は確認されなかつ

た。また、漁業被害も発生しなかった。

(2) その他の有害種の出現状況

有害種による赤潮の発生はなく、漁業被害も発生しなかったが、3 種類の有害種が低密度で出現した。

① *Chattonella marina*

7 月調査 (S3) 及び 8 月調査 (S4 近傍) において出現が確認されたが、最高細胞数は 11cells/mL と低密度であった。

② *Karenia mikimotoi*

7 月調査 (S1、S3、S5) において低密度で確認された。

③ *Akashiwo sanguinea*

7 月調査 (S5) において僅かに確認された。

4. 研究成果

調査で得られた結果は、2008 年度水産庁赤潮委託事業の資料として、共同で実施している兵庫県、鳥取県及び(独)水産大学の 4 機関で取りまとめられた。